新聞定價一ヶ月80圓 一部賣(3圓) 月曜休刊
磐城日日
昭和29年(1954)2月4日 (木曜日) 第1043号

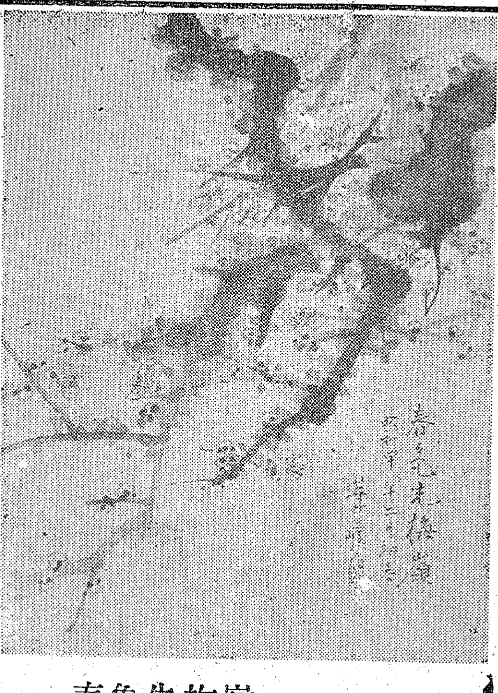
磐城日日

発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
編集兼発行人 梅野隆

社告

二月五日六日附の新聞は旧正につき休刊いたします

磐城日日新聞社



春亀先梅嶺　華崖

近年異常の進境を示して注目されている郷土畫家橋本華崖氏は、鹿島合併後迎える初の新春を壽ぎ春亀先梅嶺と題する作品を物した。同画は凛烈の寒氣の中　花開く梅の氣魄を讃えた傑作で、古きは蘇り、若きは鍛え　満身の充実を以って生き抜く両町村民への希望を象徴している　（梅）

小名濱の市制實現

江名除く縣審議会の答申

縣合併促進審議会は二日知事公舎に於て開かれ、去月二十日から二十五日にかけて縣下各地區の現地調査を行つた報告を基に協議を重ねた結果石城郡下では小名浜町、泉町渡邊村の合併、澤渡、三坂、永戸三村の合併を知事に答申することになり小名浜市実現に拍車をかけることになつた

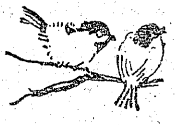
この縣審議会答申中、小名浜町を中心とした合併の原案から江名町を除き、とりあえず泉、渡邊の二町村の合併により市制施行の線を出したことは各方面の注目を集めている

これに対し先般發足した小名浜外三町村自治運営懇談會では縣審議会とは別にあくまでも獨自の立場から四町村間に於て合併問題を協議し、懇談会の協議のもとに江名町をも含めた四町村合併に進める模様である

太郎鳥と花子鳥⑯

—不思議な鏡の巻—

浜野幸子



第八景

二十日の早朝、美代坂を降つて來る四人の一団が女浜に急ぎました。一行のうち二人は某所へ直行します。

「全く無根です！人を馬鹿にしとる、」一人が斯うイキまけば「名譽毀損だす」と他の一人が合槌を打ちました「告訴します!!」二人は太陽新聞を相手取つて係官に告訴状をたゝきつけました。しかし御両人の告訴は本当は二人の意志ではないのです、第七景の〇〇と××両氏の力添え？によるものでした。本心は澁つたのですが繰る二人の懇願に仕方なくこのカラクリにベールをかぶせ堂々とその筋に訴え出たのです。確証がない、と闘々しく構えた聟です。若し徹底的に、どうだとれでもか！とたゝかれたら何うするんでせう……。その時とそ二人は二人の一味として返濟した、当時の人間的良識も失逐するハメになるとも考えず情にサオさして流されているのでした

「宜しい、受理しませう」係官は二人連名の告發状を上司に提出する事になりました、とのカラクリを知つてか知らずか〇派の選挙事務所に血相変えて飛込んで行つた男がありました、某新聞社の〇〇さんです。告訴したんだべ、好材料だ!!男は一人で昂奮しています。早速〇派の某から無根も甚々しいの聲明をメモするとその言葉のみを信じて記事を書きました。一寸、記者の感覚としてはピンボケした頭です。彼一人がとの告訴をメグッてワイ／＼騒いでいるのです。各社の記者は自分がたしかめる迄冷静にかまえているのですが、その男は選挙と云うと突走る悪へきを持っています。普段からお山の大将を氣取り高くない鼻を無理に高くしようとする苦労はなか／＼大變なものでした。だから、とゝらで腕を見せたかつたのでせう。〇派の報道はとの男が全て一役買つているのでした号外もとの御仁の發案でした。その夕刻新聞は告發記事を大きく掲載、はては號外になる仕末でした。〇〇さん達は號外の印刷に鯛良ー女濱間をハイヤーで二往復するなどハイヤー代だけでも總額一萬円使つたとの事でした。……

自治懇談會開く

小名は江名町含む構想

小名浜外三町村自治運営懇談会（会長長瀬彰夢氏）幹事会は五日午前九時から小名浜町役場会議室で開かれ、各町村の資料作成を行う

縣審議会の答申により一歩前進した觀の小名浜の中心とする合併問題はとの幹事（各町村議会庶務主任）会に於ける資料作製により、更に一歩前進し、各町村は作成された資料を基に協議を行い、各町村の大綱を打ち出して更に懇談会を開催する運びとなる

小名公民館専門部会

予算協議会

小名浜町公民館では五日午後一時から専門部会を開き二十九年度事業計畫同豫算の立案協議を行うことになつた

同公民館では社会教育の振興を圖つて二十九年度は専門部会の強化、事業の内容充実を期し、それに伴う豫算面の強化によつて学校教育と共に躍進充實を圖つている

利用者懇談

橋型グレーン

小名浜町日本水素株式会社（取締役社長荘野精二郎氏）では二月三日午前十時より同社二階第一会場に於て荘野社長ら出席による「小名浜港三千トン埠頭内の新設グレーン利用に關する縣條例と利用者側の意見をとりまとめる爲」地元港湾関係者の参席を願い種々懇談した、今回の懇談会は利用者側として同社は同機の圓滿運営と縣條例基準料金の勧案を再度具申したものである同日の出席者は左の通り

小野縣議、小名浜港務所佐藤主事、東北海運局小名浜支局香野支局長、運輸省小名浜工事々務所伊藤所長、小名濱臨港鐵道浦田社長、三洋海運小名浜出張所、石川所長、常磐炭礦磐城礦業所長、小名浜港灣運輸株式會社社長西丸猛、小名濱埠頭株式会社石津専務の諸氏

植田澁川の護岸工事

植田町澁川の上流築堤右岸一〇〇米、左岸二〇〇米工事は工費五〇〇萬円で川部村中山組中山吉之助氏　また鮫川右岸五〇〇米築堤工事は植田町横町大森組蛭田勝雄氏が五六〇万円で請負工事施行中であるがその大部が進行、來る三月一杯には完成することになつた

開運丸船員海に落つ

小名浜町元分、比佐政種（五六）氏所有第八開運丸（二九トン）が去る一日正午頃相馬郡原釜沖を歸港中同船乗組員漁夫阿部幸夫（一九）君は誤つて海上に落ち行方不明となつた

村内全校生に給食

田人村が予算百五十万

田人村中学校（校長渡邊薫一氏）ではかねてより計畫していた村内全校（田人小学校、中學校、石住分校、貝泊り分校）の学校給食問題に付いて、父兄懇談会及びPTAの役員会を開いていたが、PTAとしては學校給食の未納分（約八千円位）だけは協力する事になつた

このため各学校關係では代表が村当局の理解ある協力を求めることに一致過般田人村役場に逸見村長を訪ね、給食による学校教育の充実、児童の健康保護などに付いて早急なる給食施設を完備される様陳情した

田人村は菊多方部でも最も管内が廣くそのト避地どあつて学校も小中学校の本校を初め、石住分校、貝泊り分校、荷路夫分校、四時川分校、旅人分校などがありその教育活動も仲々の苦労があるが各校共にその振興に熱心な努力を続けている、尚給食設備の予算も村内全校で約一五〇万圓位は要するため村當局の現在の財政では相當のとんなんがある模様であるが強力その予算を計上されるようであり田人村の全校給食も明るみになつた

泉公民館に藏書寄贈

半谷重商氏

石城郡泉町泉、半谷重高（七三）氏はこのほど泉町公民館圖書室に藏書四十四冊、雑誌三十八冊を寄贈、同館の藏書目標三千冊（現在数一千五百冊）達成に協力職員を感激させた

コタツからボヤ

二日午後十時二十分頃小名浜町林の上二〇〇無職只野ナミ（六二）さん方のコタツから火を出したが、幸い発見が早やかつたためコタツ布団、疊などをとがしただけで消し止めることが出來た

天氣豫報 4

（本日）北西の風日中やゝ強よく晴れ時々曇り、北部山沿いでは小雨

「明日」西よりの風晴れたり曇つたり夕刻一時しぐれる處もあります

「氣温」本明日とも大体温かです

「海上」季節風が時々やや強よく風波があるでしよう

虫下しに[illegible]
サントニール錠
[illegible]薬局
小名浜町本町 電[illegible]

町民に謹告する

—今次選擧と私—

杉本善之助

去る二十一日執行の町会議員補欠選擧に私の立候補の趣旨は申し上げました通り何ら名譽も利欲も得票の数なぞも毛頭なく、只公明選擧の行われるの念願でありました届出日さ十七日は何らなすともなく過ごした十八日早朝より選擧管理委員会より交付された旗をかつぎ町へ立候補の挨拶にまわるつもりでありましたが、知人の厚意で擴聲器を貸りましたので午後より町をまわり十八日は四時間、十九日は六時間、二十日六時間で都合十六時間町内をまわりしことゆえ、各町お訪ね出來ぬところもあつたと思います、それにもかかわらず私の立候補の趣旨に御援助下され二千百六十八票の御芳情を賜わりしことは感謝に堪えません　茲に御投票下された各位に厚く御禮申上げます、私の立候補が町に波紋を起し町長の選擧にまず波及しいろ／＼のデマが飛び各方面へ御迷惑をおかけせしこと、まことに恐縮の次第にて深く御わびを致します　私の選擧中に最も厚意を寄せてくれました通名三五兵衞、小野忠春氏に對しては誠に申わけなく、何ゆえ私に小野忠春氏が厚意をよせてくれましたか、小野忠春氏と私の關係を後日の本紙にて申上げ町民各位の永解を願いたいと思います　終りに町長に當選された立花秀吉氏、町議に當選された小野幸次氏、竹田千里氏の健康を祈ります

經費をかけずに良い品安く

皆様のお店です

冬服地ネルカセン純毛特價
夜具地と裏地フトンの手入
カネボウ毛糸　1900円
松月足袋別珍特製160円
豆別珍55円大人100円
純毛コットン1500円より
セーターカーデガンツクリ
裏毛メリヤスはオリエント
学生服セーラ服學帽カバン
化粧品柳屋メヌマ ジユジユ・ウテナ　80円
ちどりフトン綿

舊年末年始の御贈答品良い品嬉ばれる品私共は常に皆様の御相談相手として待機しています

皆様の店
平マーケット
小名浜第二小学校前 電二九七
チケット歓迎

昭和25年10月6日 第三種郵便物認可　昭和26年7月13日 運輸省特別承認扱第684号
磐　城　日　日
昭和29年(1954)2月4日　(木曜日) 第1043号

新に極洋母船飛躍の北洋漁

五船團配屬船決る

清勝丸以下本縣船は十八隻

北洋漁業期（五月—八月）を前にして遠く千島、カムチャツカ海域にサケ、マスを追つて出漁する本縣獨航船（十八隻＝うち一隻は未定）の所属母船團がこの程決定したとの所属をめぐつて漁業会社の獨航船争奪戦は昨年より激烈を極め、吾が社に一隻でも多くの優秀船をとその引抜きに社員はじめ社長、重役連までが現地に乗り込み船主の希望を百%受け入れるといつた具合で、このため各漁業会社では本縣出漁船に対し仕込金約一千万円を融資するなど積極的な支援を送つている

漁業会社別所屬船團次の通り

▼極洋捕鯨KK＝第六大成丸（五四）中之作所屬、太洋島所有

▼日魯漁業KK＝第八北州丸（五二）中之作港服部武男所有、第八源海丸（五〇）中之作港高橋英男所有、第八金榮丸（五一）中之作港吉田義所有、第三天洋丸（五五）小名浜港宮野靜翁所有、第十五共徳丸（五四）小名浜港柳内無人所有、第一長榮丸（五三）四倉港長谷川若太郎所有

▼日本水産KK＝第八興洋丸（五二）江名港志賀弘所有、第二開洋丸（五〇）江名港佐藤傳所有第二辰巳丸　五四）江名港佐藤良江所有、第五福吉丸（五一）江名港金成文平所有、第二盛喜丸（五〇）中之作吉田義所有第五瑞寶丸（五〇）小名浜港馬上庄治所有

▼太洋冷凍船kk＝第八康丸（五一）江名港金成權三郎所有、才八吉長丸（五一）中之作港吉田金司所有、第一康盛丸（五四）四倉港片寄コウ所有、第七榮丸（六二）小名浜港水野良吉所有、尚未決船は淸勝丸（八三）江名港佐藤鶴松所有、以上十八隻となつている

駅廳舎移轉など

植田臨時町會で議決

植田町臨時町会は、町有財産無償譲與の件、植田駅前公舎二棟を移轉する土地、保健所隣接地一二五二坪一合六勺を無償で譲與に決定した

また森合芳男議員より駅庁舎の改築實施期及び地元負担経費に付いての質問に對し鷲議長より次の様な答辯があつた

当初植田町としては百万円位の負担は止むを得ぬものとしていたが縣内代議士の御協力により地元負擔は必要としない事になるかも知れないとの事であつたが、水戸管理局の佐藤局長の言によると改築費は尠くとも百三十万円を要するから受益者側で半額でも負担するならば早急に實施の運びとなるとの事でした、一應縣内代議士にお骨折りを願う段取である

一、公営住宅地買収の件及借入の件、植田町仁井田字中の目八五番地八四番畑二反六歩、同十一坪買收に決定、同四七番地一〇六坪七合八勺同八二番地四〇坪を借入れする事に決定した

一、予算外義務負担の件冷室による被害農家に賣渡す政府保有米は町は十万円を限度として二十八、二十九年度に於いて支拂う事を條件として縣より賣渡しを受けどれを被害農家に賣渡す契約を結ぶ事を決定、更に縣信連合会より植田農協組合が四百九十一万圓を融資しこれを貸付けた事によつて損出を生じた場合は總額の百分の四〇に相當する額を限度としてその損出を補償することが出來る、原案を可決

一、固定資産評價審査委員選任の件は、村松義節凡（元助役）を万場一致で選任決定した

鳥小屋癈し泉で映画会

石城郡泉町では鳥小屋行事廢止に伴いその記念行事として町内兒童生徒及び一般成人慰安の樂しい映画會を左の日程により開催する、上映々画は二ユース映畫他南部の歌、現代劇映畫などで日時は二月十七日晝、夜の二回にわたり午後一時半から瀧尻、續いて泉小学校、夜は午後六時より泉小学校と下川の二會場で催す

雪の處女地

石井芳江

ふたつに折るマスクに冷えの追ひすがる
菜の花活くシン立ちてより美をくずす
かちかみし手と手を包み吾子とあり
足袋切らす子のあるゆえに生きんとす
塵として掃かるる針のつめたさよ
飼鶯の唄ぬくものに躍動す
芽木疎ら下枝は太き芽をもてる
雪ふる音頭心にふれてしまいけり
着ぶくれし兒よ朝ベルに胸うたる
天より受く雪の處女地を歩つて見る

海に生きる

『海員組合で家族慰安えい書』

全日本海員組合（組合長陰山壽氏）では船員と家族の慰安映畫会を次の日程で開催することになつた

上映々画「海に生きる」は東支那海を漁場とする手繰漁船の記録映畫、同組合の製作で文部大臣賞毎日映画コンクール入選映画技術賞などに輝いている

▼四日午後三時＝小名浜第一小講堂
▼四日正午と午後四時からの二回会場同じ
▼六日午後四時＝中之作磯上鐵工所
▽上映々畫
「泣虫記者」、記録映画「海に生きる」、記録映画「カニ工船」、その他マンガ、ニュース等

随想　仙台高尾　⑨

高萩　精玄

この高尾の最後については前述のように種々なる風說、妄說が行われておりますが、一名仙台高尾とか伊達高尾とか呼ばれているところから見ても仙台の伊達公との關係が考えられます。そしてそとには、伊達綱宗公及び全綱村公との場合が引かれております。

仙台叢書第一巻所載の「伊達略系」を見ますと政宗公を十七世と數えて

二十世綱村公
萬治二年三月八日江戸に生る。三年封を襲ふ。

とありますので、高尾の死亡した時を萬治二年十一月といたしますと、まだ十一カ月足らずの乳兒でありましててんで問題になりません。

次に、綱宗公のことを調べまする

十九世綱宗公
寛永十七年八月八日仙台に生る。萬治元年封を襲ふ。三年致仕。若狹守と稱す。

と記されてあります。

萬治元年　父忠宗が六十才で卒したので　その年の九月、綱宗十九才で家を繼いだのであります。高尾の死亡したのは翌二年でありますので、舟中のつるし斬りも当然考えられます。

しかし綱宗は、萬治二年四月、郷里仙台へ初入部致し、翌三年二月、神田川堀割の命を受け、三月江戸に參府して五月か[illegible]高尾の死亡した十二月には仙台に歸つていたことになります。

かの有名な伊達騒動はこの堀割工事の頃から端を發するのであります。

即ち綱宗の叔父伊達兵部宗勝は三十九才で、三万石を賜つて一門の首席におりましたが、綱宗の幼弱なのを侮つてひそかに國政を壇にしようとする陰謀を蓄え、頻りに飲酒をすすめ、又日々工事を巡視させてその途中侍臣に命じて遊蕩に導かせたのであります。この時橋町の柳屋という風呂屋に勝山風という髮の結び方を後の世に遺したほどの名高い湯女がおりました綱吉はこの勝山を愛することと甚だしく、そのことが世に喧傳されましたが宗勝は全然諫めもせず幕府からも未だ咎めのないうちに、こちらから訴え出ようとして家臣連署して申し出ましたので、その年の七月、綱宗は退隱を命ぜられ、品川の下屋敷にチツ居することになりました。（大槻如電—「伊達騒動」による）

大分余談になりましたが、再び本論に移りましょう。綱宗が万治二年十二月には江戸を留守にしていたことに氣付いた京山は

萬治元年九月三日御家督　同二年二月五日母公逝去、同年五月七日發駕　十四日入部。

と書き更に高尾の死後二十七年後に出版された、（增補江戸鹿子大全」を引用して高尾病死說を唱えております。

（續く）

商店界に赤信號

必死の販賣戰舊正
目当て賣出し不振

暮が押しつまれば……と一縷の望みをかけて來た商店界の不景氣は依然として持ちなおす事も出來ず昨春來の不況は今日に至つてようやく深刻の度を加え、倒産寸前にある商家も相当數に達する模樣である

平市の商店界はその販路が郡下一圓にあり、凶作による農村の購買低下は他のサラリーマン層の賃上げ、越年資金等により幾分緩和され　更に凶作農村中には所謂る政治凶作景氣の農家もある所から左程の打撃とはなつていない模樣であるが、それでも購買力は半分に落ちてると語つている

小名浜町の場合はその購買層が殆ど極く近隣の農村と漁業關係に限られており、農村の凶作に加えて水産業では最も金を町に落す加工業が不振で仕事の量に比して利巾がなく、經營も四苦八苦の態が强よく影響し昨年の三分の一に落ちている事が多くの一致した嘆息となつている

商業界は夏の「港まつり」が長雨にたゝられ觀光營利が零に等しく盆賣出し、新正賣出しの不振を旧正一擧に挽回しようと無理な金融を受けて相当の仕入を行つており、賣行き不振から一部には投げ賣りも行われ、今回の福引は「この分だと足が出そうだ」と眉をひそめさせている

魚菜市況　3

「小名浜中央青果市場」

卵一〇、七〜一二牛蒡一五〇〜一八〇大根五〜三〇ほうれん草一〇〇〜一四〇人蔘五〇〜六〇里いも四〇〜七〇ねぎ六五〜一〇〇馬鈴薯六〇〜七〇切いも七五〜一八〇白菜三六〜五〇玉菜二〇〜六〇さつま二五〜四〇

訂正

本紙二月三日附の收入役話題にのぼる人々の記事中前小名浜漁協監事佐々木繁太郎及び小名浜農協組合長長瀬誠明氏に關する記事は誤りにつきこれを取消します

…卸…價…格…と…は…

大長靴	10文以上	550圓
半長靴	〃	500〃
紳士半長靴	〃	500〃
裏付ツャ付中長	9.7文	400〃
〃	9.0文	350〃
〃	8.0文	300〃
婦人雨グツ	9文半以上	400〃
立エリ婦人雨グツ	〃	450〃
赤子供雨グツ	8文—9文	280〃
〃	7文7文半	250〃

其仙種々取揃えて御座います

只今当店では上記卸價格にて一般消費者に提供しております　数量に制限ありますのでお早く御來店の上お求めねがいます（旧正月三日迄）

小島ゴム店
小名浜第一小學校前　電話340番

誰も言う
そばは長寿の良い主食
一日一回そばうどん
みそかそば食つて夜明す
年の暮
毎度有難う存じます
出前迅速
福島屋
電話一二三番

正月映畫はこれだ！

3日〜5日
待望の二本立
いよ／＼公開!!
續續續（大阪罷り通る）
魚河岸の石松
總天然色
大時代劇
日輪
市川右太衛門、片岡千恵藏
木暮実千代

6日〜9日
東映新春映畫NO1……
喧嘩太皷
東京封切痛快篇
鐵腕涙あり
總天然色西部活劇
トマホーク
峽谷の待伏せ

キンビ館